

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.21
2014 September

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀 (ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

【第3回琉球病院映画祭】

平成26年6月14日(土)に那覇市の市町村自治会館において「第3回琉球病院映画祭」を開催しました。

今回は、パキスタン北西辺境州に1984年に赴任し、アフガニスタンの地で30年にわたって医療、農業、水産業を担ってきた中村哲医師の記録映画鑑賞会を行いました。

まず、講演で当院院長でペシャワール会副会長の村上優が、中村哲医師の活動を支えるために福岡市に結成されたペシャワール会のこれまでを現地活動に即して紹介しました。



その後「アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く 治水技術 7年間の記録」を上映しました。

映画は用水路を拓くまでの経過をドキュメントした壮大な映画で、80名の参加者を得て盛況のうちに終了しました。

琉球病院では、今後も「琉球病院映画祭」を継続して開催して行く予定ですので、多数のご参加をお待ちしています。

経営企画室長

那覇市からのアクセス



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事：請負業者
- 電気設備 (株)九電工
- 機械設備 (株)三建設備工業
- 建築(第1期)工事 (株)浅沼組
- 建築(第2期)工事 (株)浅沼組

● 地域医療連携室だより

当院での受診相談件数が増えてきました。相談件数の上位はアルコール依存症、児童・思春期の来所相談です。認知症の相談も家族や地域の関係機関からの問い合わせも段々と多くなってきました。

地域医療連携室では、ご本人または、ご家族、地域の方から受診相談を受けております。お気軽にご相談ください。



空床状況
8月25日現在

精神科病棟
5床

認知症
2床

アルコール
5床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は118例になりました。7月の新規導入は3例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も40例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年7月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。



こども心療科

自閉症スペクトラム障がいと診断されたお子さんを対象に小学生男子グループを毎月第3金曜日に実施しており、先月号のマンスリーでその取り組みを紹介しました。今回は、子どもグループの裏で実施している保護者グループについてご紹介します。

保護者グループは、前半に発達障がいを持つお子さんの子育てに関してスタッフが講義を行い、後半はフリートークという構成になっています。今月は「褒めること」をテーマに講義を行い、その後保護者同士で子育ての難しさ・悩みを話したり、家庭で行っている関わりの工夫について情報交換しました。

保護者グループは現在、小学生男子グループの保護者を対象に行っています。興味関心がある方は地域医療連携室までご連絡ください。

認知症医療

<広報活動について>

私たちは、金武町・うるま市・名護市などの医療機関をはじめ、各地域の民政委員やケアマネージャーさんを対象に広報活動を行っています。その中で「地域に認知症疑いの方がいても受診を嫌がりなかなか病院に連れて行けない」というお困りの声が多く聞かれます。病院受診を勧める一つの例としては、「認知症かもしれないので病院に行こう」と誘うのではなく、「血圧や血液の検査をする健康診断に行きましょう」と声を掛けると、抵抗なく受診に繋がりがやすく、ご家族の負担も軽減します。

認知症の早期発見と早期治療によって、高い治療効果が期待できます。ご家族をはじめ、近隣の方々でご相談したい事例がありましたら、地域医療連携室までお問い合わせください。



重症心身障がい児医療

日差しが眩しい夏の季節、当病棟ではプール活動を実施しました。プールといっても5~6人が入れるサイズの大プール、2~3人が入れるサイズの小プール2つの計3つのプールを準備して行う規模の活動です。利用者さんの中には、感覚過敏が有り入水を好まない方も少なからずいらっしゃいますが、頭から水に潜る動作を繰り返される方がいたり、浮き輪に浮いてリラックスされる方がいたり、思い思いのプールの楽しみ方を実践できる方も多いです。また、夏の日差しで日光浴をされる方もいます。強度行動障害やこだわりなどを原因とし、プール実施中も何かとトラブルは起こりますが、病棟職員での観察を綿密にして対応しています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では7月現在、外来通院の患者様55名、入院中の患者様21名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

昨年より、北部保健所主催にて、現在北部地域アルコール対策推進会議が開催されています。目的は、県北部地域における、アルコール依存症のみならず、総合的なアルコール関連問題の対策です。具体的には、全体の方針を決定する推進会議、さらに、依存症対策の部会、未成年や若年者の飲酒問題対策の部会、壮年のアルコール多飲による健康被害の対策部会と3つの下部組織で構成されています。当院からは、推進会議の議長、各部会の部長として、2名の精神科医師、1名の精神保健福祉士が参加しております。今年度は効果的な活動が実施でき、地域へ貢献できればと考えています。

包括的地域精神医療 (ACT)

日中の気温が30度を超す暑い日々は相変わらず続いています。本土より早かった旧盆の行事も済み、慌ただしい日々は過ぎてほっとしている所でしょうか。

当院では入院中の患者様の夏の楽しみでもある、盆踊りが行われました。残念ながら、雨と雷の鳴る荒れた天気ではありましたが、浴衣を着用し笑顔で踊る姿はほのぼのとした気持ちになりました。当院に通院している患者様も、地域で開催されるいろいろな祭りに参加することで、楽しみを見つける、地域に馴染んでいく良い機会でもあります。

家族や地域の支援者の方はこのチャンスを利用して誘ってみてはいかがでしょうか。

臨床研究部活動状況

沖縄県における医療観察法入院対象者の予後調査

—退院後の再入院を中心に—

平成25年7月15日までに琉球病院医療観察法病棟に入院し、退院した方の予後調査を実施しました。対象者は沖縄県内に退院した28名の方で、調査内容は退院後の処遇状況、自殺企図、居住形態等でした。今回は退院後の再入院についてご報告します。

退院後、医療観察法再入院となる事例は0件でした。精神保健福祉法(以下P法入院)による入院をされた方は9名(全体の3割程度)で、医療観察法通院処遇期間におけるP法平均入院回数は3.11回で全国平均(1.7回)より多かったです。入院形態の内訳は措置入院0件、医療保護入院9件、任意入院18件でした。全国平均と比較すると入院形態の内訳は全国平均と近い値となりました。P法入院回数が全国平均より多かった結果については、任意入院が多かったこと、再他害行為が0件だったことから、悪化の早期警戒サインを察知し、早めに対処できたことによるものと考察されました。

	沖縄県内 (n=28)	全国調査 (n=237)
再他害行為	0	3%
医療観察法による再入院	0	1.3%
精神保健福祉法による平均入院回数	3.11回	1.7回
精神保健福祉法による医療保護入院	9件 (64.3%)	61%
入院形態 任意入院	18件 (32.1%)	36%